

# 学燈 Gakutou

【第24号】



～「実践研究中間発表会」・「成果報告会」を開催しました～



～中間発表会（研究内容）の紹介～



## 【教職実践開発コース 1年生】

### 子どもの言語化能力促進による学習成果の向上－ICT活用を通して－

教育実践開発コース1年 池上 航太

私は、生徒が論理的・批判的・創造的思考を用いて、学習内容を数学的に自己説明することができるようになるための中学校の数学科の授業の在り方について研究しています。自己説明とは、自己問答を通して、学習課題を数学的に適切に解釈し、解決方法や導かれた結論を自分の言葉で数学的に表現することです。そして、伊藤貴昭氏が提唱する理論に基づき、「自己説明」の他に「Tuning」（生徒の課題解決をサポートするために授業者が生徒に対して発問、揺さぶり等を投げかけること）「協働学習」（生徒同士の協働学習）の3つの要素から成る数学科の授業の実践に取り組んでいます。生徒の変容を適切に見取りながら、研究を進め、これからの数学科の授業の在り方について提案できればと考えています。



### 科学リテラシーを育む中学校理科の授業について

教育実践開発コース1年 渡辺 翔太

PISAの調査によると、日本の中学生の科学的リテラシーは世界の中でも高順位ですが、科学技術政策研究所が大人を対象に行った科学的リテラシーの調査では、そうではありません。これには、学生時代の学びが結果的に表面的な知識の詰め込みに傾斜し、汎用的性の高い概念的な知識を十分獲得できていないことが原因ではないかと考えます。このことに関連して、川勝博氏は、科学的に判断・活用する能力の向上、そして自然科学の基本的な概念や法則の習得の重要性を指摘されています。そこで私は、科学的に思考・判断する活動を行うことで、自然科学の概念や法則を獲得することができる中学校の理科の授業の在り方について研究をしています。今後さらに実践を重ね、来年度の成果報告会に臨みたいと考えています。



## 「関わる力」を育む小中一貫教育の推進

### －学校・地域連携カリキュラムの効果的な活用を通して－

学校経営コース1年（下関市立本村小学校教諭） 野母佳澄

本研究は、中学校区のグランドデザイン、学校・地域連携カリキュラムを中心に置き、小中一貫教育の推進に向けた組織マネジメント、カリキュラム・マネジメントの在り方を探ることを目的としています。「子ども主体」をキーワードに、中学校区でめざす児童・生徒像の実現に向かって、児童生徒が主体的に関わり、教師や保護者、地域と思いを共有しながら自らの学びをどのようにマネジメントしていくのか、めあてと振り返りの設定、熟議や児童会と生徒会の連携に焦点を当て、検証しています。また、下関市の小中一貫教育で大切にしている5つのつながりの1つである「地域・家庭とのつながり」について、行政やまちづくり協議会と協力しながら、地域素材を活用した魅力あるカリキュラムをめざし、ブラッシュアップを行います。それを小中一体となって推進することで、9年間のつながりのある学習とするだけでなく、ふるさとを愛する心の育成にもつなげていきたいと考えています。



## 生徒をコミュニティ・スクールの運営者に育てる

### －地域に開かれた生徒会活動を通して－

学校経営コース1年（岩国市立灘中学校教諭） 井村真規

本研究は、地域に開かれた生徒会活動を通して、生徒をコミュニティ・スクールの運営者、つまり、めざす「生徒像」や「コミュニティ・スクール像」「地域像」の実現に向けて、大人との協議により具体的な取組を提案し、着実に実行できる生徒を育てることをめざしています。地域に開かれた生徒会活動とは、「地域の方の思いや願いを反映した生徒会活動の計画や運営」「地域の方も参加する学校行事の計画や運営」、「地域課題の解決に向けた生徒会活動の計画や運営」の3つから成ります。これらの活動を行うためには、生徒と地域の方が協議する場が必要です。そこで設置するのが、生徒会運営協議会です。生徒会運営協議会は、生徒会執行部役員の生徒と学校運営協議会委員、生徒会担当教員で構成し、基本的に月1回のペースで開催します。1月末の時点で3回実施し、令和6年度からの生徒会活動の計画等について協議を行いました。今後は、全生徒が参加する生徒会運営協議会の開催等により、全生徒をコミュニティ・スクールの運営者に育てることをめざして、研究を進めていきます。



## 【特別支援教育コース 1年生】

### 児童の興味関心に基づく自立活動による行動レパートリーの拡大 ー ポジティブ行動支援と機軸行動発達支援法の視点による「ハッピータイム」の創設ー



特別支援教育コース1年（山口県立田布施総合支援学校教諭） 山本麻衣  
新たな自立活動の取組として「ハッピータイム」を創設しました。ハッピータイムには、児童の興味関心に基づいた学習内容を設定し、ポジティブ行動支援（PBS）と機軸行動発達支援法（PRT）の視点を取り入れられています。PBSは問題行動を減らそうとするのではなく、望ましい行動を増やす手法です。PRTは子どもの選択を尊重し、既にできると新しく学ぶことを組み合わせ、試みを強化するなどの特徴があります。ハッピータイム試行の中で、児童の要求行動の獲得や般化、仲間との関わりの増加、登校意欲の向上などの行動変容が見られ、効果が示唆されました。来年度は、ハッピータイムの実施形態や評価方法を見直し、グループを越えて広げるように取り組む予定です。自立活動の指導の充実と児童生徒のQOLの向上、行動レパートリーの増加を目指して今後も取り組んでいきます。



## ～2年間の研究、成果報告会の紹介～



## 【教育実践開発コース 2年生】



### 教科指導におけるICTを活用した対話的学習の促進

教育実践開発コース2年 徳原 淳

私は、教職大学院で、「教科指導におけるICTを活用した対話的学習の促進」をテーマに研究を行いました。大学院での学校実習は2年間と長く、多くの実践ができるため、その都度改善を図りながら研究を進めることができました。また、類似の研究を行う同期生や学校経営コースの現職教員の院生の方からも、たくさんの助言を受けることができました。学校実習では、大学院で学んだ理論を基に、実地授業を継続的に行いました。これにより、授業技術を高めることができました。また、授業外での子どもたちの交流を通して、生徒理解の大切さや難しさを学ぶこともできました。



大学院でのこれらの学びの大切にし、春からは山口県の公立学校の教員として子どもたちのためにがんばります。



## 「感謝」

学校経営コース2年（岩国市立東小学校教諭） 原田真由美

「感謝」— 実践研究成果報告会を終えた今の気持ちを表すと、この一言に尽きる。参加して下さった方々は2年間一緒にチャレンジしてきた共同研究者である。今回7期生の成果報告会には、原籍校・協力校の教職員はもちろん、児童生徒や地域の方、研究に関わった民間企業・団体関係者にも参加していただくことができ、幅広く様々な立場の視点から協議ができたことは研究のまとめとして大変有意義であった。決してうまく進むことばかりではない2年間だったが、参加者それぞれの発言からも、本当に多くの方に支えられて成り立った実践研究であったことを強く感じた。

「成果報告会は、院生の成長報告会でもある」と言われ、研究報告の内容だけではなく、90分間のマネジメントもすべて院生に任される。院生それぞれの2年間の学びと持ち味を生かしてデザインした成果報告会が参加者の熱意を高めるものとなり、今後各校及び各市町のさらなる実践へとつながっていくことを願っている。



## ～第7期修了院生 大学院での学びを振り返って～

### 理論と実践を往還した2年間

教職実践開発コース2年 田中 詩織

「子どもにとって魅力的な先生」は、確固たる理念や理論に裏打ちされた優れた教育技術を備えています。教師を志した私は、「自分がどんな先生になりたいか」「どんな教育技術を身に付けるべきか」を常に自分に問いながら、この2年間、講義や研究に臨みました。大学院では、授業を中心とする教育方法学だけでなく、学校運営や地域連携教育など、学校教育について幅広く学ぶことができました。また、院生が主体となって運営する「Cafe21」「コース研究会」では、現職教員の院生や教育学部生、大学の先生方など、世代や立場を超えて、多くの人たちと教育について語り合うことができました。

2年間の学校実習では、大学院での学んだ理論を基に研究テーマを設定し、継続的に実地授業を行いました。これにより、この2年間で授業力を伸ばすことができました。また、体育祭等の学校行事や学校運営協議会に出席する機会もいただき、学校運営の実際について学ぶことができました。

このように理論と実践を往還する過程では、様々な方との関わりがありました。このことは、自らの学びを深めることにつながりました。このような経験ができる、これは山口大学教職大学院の魅力の一つです。私は、この春から教室の教壇に立ちます。これからも学びを止めることなく、「子どもにとって魅力的な先生」をめざしていきたいと考えます。



## 「出会い」と「つながり」を成長につなげた2年間

学校経営コース2年（長門市立深川小学校教諭）谷村直美

教職大学院での2年間は、「出会い」と「つながり」の中で自己の変容と成長を実感することができた貴重な日々であった。

2年次は、講義を運営する側も経験させていただいた。その中で、先生方の大きなバックアップをいただきながら、議論では何をゴールに設定するのか、講師の招聘で気を配るべき点は何かといった、様々な視点をもって動く経験ができた。毎回の講義の積み重ねが、成果報告会で90分をコーディネートする力につながっていったと考えている。

また、ストレートマスターと講義を共にし、彼らの柔軟な発想や行動力に刺激を受けたことや、原籍校をはじめとする多くの教職員の方、地域で子どもの成長を願う方々と一緒になって実践を創った経験など、多くの人との関わりのおかげで、入学時から確実に見方、考え方が高度化し、行動につなげることができるようになった。

今後、どのような立場で教育に携わることになったとしても、教職大学院で得た理論、実践力、何より院生生活の中で出会った方々とのつながりが、自分の拠り所であり続けると考えている。この貴重な財産を山口県、市町の子どものためによりしっかりと還元し、修了生として恥じない教育者であり続けたい。



## ～退職される先生方～

※五十音順にご紹介しております。

### 教育実践開発コース 足立 直之 先生

#### ～退職にあたり、足立先生からお話をうかがいました～

「山口大学教職大学院の教育実践開発コースでは、継続的に学校現場で実習を積むことができるため、普段見えない先生方の『陰』の部分が見える。また、大学院で学んだ理論を実習校で実践した場合どうなるか、先生方の行動の裏にはどのような理論が隠れているかを学ぶことができる」とある院生が話していました。例えば授業を計画する際、学部時代であれば、どうしても「どの教材を用いるか」ということから考えてしまいがちですが、教職大学院での講義、実習を積み重ねることで、修了する頃には、自然と「今の子どもたちのために何が必要か」という視点から授業を考えることができるようになるのではないのでしょうか。また、大学院での学びを通して、「教師としてぶれない考え」をもつことができるようになると思います。学校現場に出ると、どうしても「やり方」「伝え方」ばかりに目を向けてしまい、「考え」を後回しにしてしまうことがあります。私もかつて大学院に在籍していました。当時は現在の教職大学院とは異なり、教科（美術）の専門性を高めることを目的としていましたが、2年間の講義や研究を通して、広い視野を身に付けることができました。

院生の皆さん、2年間の大学院での学びを価値あるものにしてください。

### 教育実践開発コース 岸本 憲一良 先生

#### ～退職にあたり、岸本先生からお話をうかがいました～

今年度で山口大学教職大学院を退職される岸本憲一良先生は、国語教育学を専攻とされています。教職大学院の前身の大学院時代から、ストレートマスターや現職教員の指導に力を入れてこられました。また、先生は小学校教員時代から書き溜めてこられた「口語自由律」で詠まれた短歌を『不規則な点滅』という本に収め、出版されるなど、大学の内外で活躍されました。そんな岸本先生に、教職大学院の院生にどのような先生になってもらいたいとお聞きすると、「どの子にも寄り添える、広い視野をもった先生になってもらいたい。様々な理論や実践にあたりつつ、自身で考え、提案できるものを生み出してほしい。学んでいくことも大切だが、自分自身の理論をこれから出会う子どもたちと共に構築してほしい」と話されました。

今回いただいた「受け入れるだけでなく、深く考える」というメッセージを、これから先生をめざす我々は意識していきたいです。

### 特別支援教育コース 嬉 真理子 先生

#### ～退職にあたり、嬉先生からメッセージをいただきました～

あっという間の5年間。まさか、教職大学院で院生に教える立場になろうとは…。実務家教員として果たして何ができるのか、不安なままスタートし、周囲に多々迷惑をかけながらの毎日でした。

思えば節目節目で未知の世界にそうっと足を踏み出す人生だったように思います。石橋を叩いても渡らないぐらいの臆病者なのですが、神様は「ほら、飛び込め。」というように子どもの頃は転勤族として、仕事につけば「養護学校」という予定外の職場を用意され、ずうっと自分の意志とは関係なく流されてきてしまいました。選ばない人生を選んだのかもしれませんが、でも、それはそれで振り返ればとても面白い教員生活でした。「分からない、知らない」が前提なので教えてもらえば良かったし、興味本位で首を突っ込むこともやり易かったように思います。年齢が上がると分かったふりでやり過ごすことも立場上あったりしましたが、知らないことが分かっていくことの楽しさは、いくつになっても消えないものだと思います。教職大学院で学ぶ意欲的な皆さんにはいろんな目で物事を見て欲しい、子供の、親の目線で相手と向かい合っていて欲しい。現場では期待されることと思いますが、自分自身の芯をしっかりと持って更に活躍されることを願っています。

令和5年度 教職実践高度化専攻（教育実践開発コース・学校経営コース・特別支援教育コース）の1年間

◎…原籍校や教育委員会での実践    ★…コース別研究会    ◇…試験関係

月	主な行事	教職実践高度化専攻			
		教育実践開発コース (学部卒)	学校経営コース (現職教員)	特別支援教育コース	
				(現職教員)	(学部卒)
4	・入学式 ・オリエンテーション 「大学院概要」「学校学校実習概要」	★オリエンテーション ◇教採対策勉強会	★オリエンテーション	★オリエンテーション	★オリエンテーション
5		★前期学校実習の進捗状況 ◇教採対策勉強会	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★学校組織を活性化するマネジメント ★学校実習リフレクション	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★エビデンスに基づいた実践	★エビデンスに基づいた実践
6		★課題研究に関する情報交換	NITS 集中講義「学校組織マネジメント研修」(オンライン)		
7		◇山口県教員採用試験（1次）	★学校実習に関する事例研究	★実践研究に係る発表及び質疑応答	★実践研究に係る発表及び質疑応答 ◇山口県教員採用試験（1次）
8		◇教採二次試験直前の個人面接演習 ◇山口県教員採用試験(2次)	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★学校実習に係る熟識	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★実践研究に係る発表及び質疑応答	◇山口県教員採用試験（2次）
9	・第1回カフェ21	★後期学校実習に向けて			★実践研究に係る発表及び質疑応答
10	・全員研究会 「華浦小 渡邊院生の実践から学ぶ」		★教育行政インターンシップ報告会	◎特別支援教育の専門性向上に向けた実践 ★教育行政インターンシップ報告会	◎特別支援教育の専門性向上に 向けた実践
11	・教職実践高度化専攻入試 ・第2回カフェ21	★課題研究の進捗状況と具体的な計画	◎原籍校や教育委員会での実習中心	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★実践研究に係る発表及び質疑応答	
12	・中間発表会・成果報告会リハーサル ・全員研究会 「日本教職大学院協会研究大会 プレ発表会」	★中間発表会・成果報告会に向けて	★中間発表リハーサル ・令和5年度日本教職大学院協会 研究発表大会（鹿児島大学）		★実践研究に係る発表及び質疑応答
1	・実践研究中間発表会（M1） ・実践研究成果報告会（M2）				
2	・教職実践高度化専攻入試		◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★1年間・2年間の振り返り	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★実践研究に係る発表及び質疑応答 ★1年間・2年間の振り返り	★実践研究に係る発表及び質疑応答
3	・修了式	★1年間・2年間の振り返り			★1年間・2年間の振り返り

学校実習

学校実習

学校実習

学校実習